

# 「気動車王国千葉」を支えた DMH17 形ディーゼルエンジン

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第 0 5 7 号
名称 (型式等)	国鉄標準形ディーゼルエンジン DMH17 形
所在地	市原市五井中央 小湊鐵道五井機関区
	夷隅郡大多喜町大多喜 いすみ鉄道
設立 (竣工) 年	昭和 27 (1952) 年

## 選定理由

昭和 27 (1952) 年に完成した国鉄標準形ディーゼルエンジン DMH17 形を搭載する気動車群は、県内非電化区間の各路線から蒸気機関車を駆逐するなど、戦後の鉄道近代化の先鋒を担って登場し、特に千葉県では気動車の配置が全国よりも進んだことから「気動車王国千葉」とも呼ばれました。同エンジンは、全国で総計 1 万数千台も製造され昭和 40 年代末までのほとんどの気動車に搭載された、日本を代表する鉄道用エンジンです。千葉県では小湊鐵道キハ 200 形にも搭載されました。

その後、技術の進展に伴い新型エンジンが続々と開発され、令和 3 (2021) 年 4 月現在、日本で DMH17 形エンジンを搭載し定期運行されている気動車列車は、千葉県内の 15 両 (小湊鐵道キハ 200 形 13 両、いすみ鉄道 2 両) だけとなっています。

地球温暖化対策でディーゼルエンジンは減少する傾向にありますが、DMH17 形エンジンは日本における鉄道用ディーゼルエンジンの基礎を創った貴重なエンジンです。



DMH17C 形エンジン (小湊鐵道)



DMH17H 形エンジン (いすみ鐵道)



小湊鐵道キハ 200 形



いすみ鐵道キハ 28 と キハ 52

協力：小湊鐵道株式会社、いすみ鐵道株式会社

参考資料：「千葉県の鉄道史」 千葉県企画部交通計画課 1980

「鉄道ピクトリアル No. 905 DMH17 系機関をめぐって」 三品勝暉 ほか